

会議録

会議名	第3回 第2期はちおうじ学園都市ビジョン検討会	
日時	令和5年(2023年)9月12日(火) 午後5時～6時30分	
場所	八王子市学園都市センター12F 第5セミナー室	
出席者氏名	参加者	熊澤 義之氏、古本 泰之氏、河井 晋平氏、杉原 明氏、武地 紫氏、豊嶋 信一氏、石谷 結依氏、小野 桂一氏、木村 美紀子氏、古瀬 智之氏、芳林 健人氏(新 達也氏の代理出席)、有田 進治氏、高橋 今日子氏
	説明者	南部学園都市文化課長
	事務局	小山市民活動推進部長、横瀬主査、池田主任、落合主事
欠席者氏名	新 達也氏	
議題	第2期はちおうじ学園都市ビジョン(素案)	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	-	
傍聴人の数	「なし」	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第2期はちおうじ学園都市ビジョン(素案) ・資料2 検討会参加者意見への対応一覧 	

議題 第2期はちおうじ学園都市ビジョン(素案)

【事務局】これまでの検討会で参加者の皆様からいただいたご意見を踏まえ、「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」(以下「ビジョン」という。)の素案を作成した。この検討会は今回が最終となる。今後はいただいたご意見をもとに内容を精査したうえ、市議会への報告や市民へのパブリックコメントを経て、来年3月に策定予定。なお、これまでいただいたご意見を素案にどのように反映したかを一覧にまとめたので、後程ご確認いただきたい。

本日お示しするビジョン素案は、前回お示した骨子案から、市の基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」における方針と整合するよう、基本理念やキャッチフレーズを一部変更したものである。また、各施策の取組のうち、新たに掲げた施策の方向性には《新規》の記載をつけている。

全体をご覧いただいた中で、何かお気づきの点があればおうかがいしたい。

【古本氏】全体として、これまでの検討会の議論を踏まえた内容になっていると感じる。気になる点を挙げると、地域に大学がある価値を最大化するという市の考え方は理解できるが、大学側の立場からすれば、キャンパスの都心回帰の流れがある中で、八王子市に立地していることが大学等にとってどんな価値につながるのかを明確にしてほしい。特に複数の自治体にキャンパスを置く大学等では、八王子市をどう差別化できるかが重要である。たとえば、

複数の社会問題を抱える八王子市だからこそ、大学等が学びの場とする意義があるなど、大学等にとっての八王子市の価値について、計画内で触れたほうがいいのではと感じた。

【事務局】仰るとおり、大学等にとって八王子市にどんな魅力や価値があるかを明らかにするのは重要である。ビジョン内で触れられればと考えている。

【古本氏】どちらか一方ではなく、大学等と市、双方にとっての魅力や価値という視点が大事だと考える。

【杉原氏】工学院大学では、新宿と八王子にそれぞれキャンパスを持っており、この使い分けについては学内でもよく議論に挙がっている。企業との連携を考えたとき、本社が都心にあり、八王子などの郊外に工場がある場合も多く、本校でのキャンパスの使い分けの目安のひとつになっている。

ビジョン策定後は、各組織にビジョンの内容を浸透させ、それぞれの組織の行動計画等に反映させることで、ビジョンの内容を具現化していく仕組みをつくる必要がある。大学コンソーシアム八王子の役割は今後重要になっていくと思う。

【河井氏】共創の視点をはじめ、さまざまな意見をお伝えしたが、よくまとめていただいていると思う。古本氏が仰られたとおり、八王子市で大学等を設置することの意義はビジョン内で触れたほうが良いと考える。ビジョンを具現化できるよう、大学コンソーシアム八王子を軸に各組織が連携して推進することが必要である。

また、指標としてアウトプット指標、アウトカム指標が設定されているが、基本施策ごとにKPI(重要業績評価指標)があってもよいのではないかと考えた。施策を推進できているのか判断する根拠となる指標を設定することは大事である。さまざまな取り組みが盛り込まれているが、各施策について重要度などで優先順位をつけてもよいのではないかと感じた。

【豊嶋氏】市の基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」の策定にあたって懇談会に参加させていただいた。出生率は年々低下しており、2040年に25大学等のうちいくつが残っているのか、今後に危機感を抱いているところだ。ビジョンのアンケート結果を見ると、学生が八王子市に愛着を持っていないことが課題だと感じる。学生が地域に愛着を持つためには何ができるのか、八王子市や大学等をはじめとした各団体が真剣に議論し、取り組んでいかなければならない。大学コンソーシアム八王子や学園都市文化課の役割は重要である。

【小野氏】八王子商工会議所の立場から、特に市内中小企業の魅力の発信や雇用について意見を言ったが、よく反映してもらったと感じている。ビジョンのアンケートを見て、「八王子に移り住む理由が特にない」という学生の回答が5割にのぼっていることに危機感を抱いた。八王子市が就職先として選ばれていないことが原因のひとつであり、市内企業の魅力を伝えていくことが学生の定住につながるのではないかと。商工会議所としても協力していきたいと考えている。

【古瀬氏】KPIを検討したほうが良いのではないかとこのほかの委員の意見に私も賛同する。「大学等や学生がまちづくりにかかわっていると実感している市民の割合」を2030年度に50%とするというKPIが現在設定されているが、実現を考えると、市民のうち10%程度が学生と何らかの活動をしており、それらを周囲が認知している状況を作り出す必要がある。

【有田氏】キャッチフレーズについて、「交流人口」「活動人口」の視点を加えている点はよいと思うが、「定住人口」の文言も明記したらどうか。また、これらが把握できれば、KPIとして加えてみてはどうか。

第1回検討会で町会・自治会に対してもヒアリングがしたほうがよいと意見を伝えたが、い

かがか。もしヒアリングをしたなら、町会・自治会と大学・学生が連携する中でどういった課題があり、どのように解決していくのかをビジョンに盛り込んでほしい。

【事務局】第1回検討会でいただいたご意見をもとに、市民活動協議会、社会福祉協議会(ボランティアセンター)、愛宕小学校・南大沢小学校の学校運営協議会へのヒアリングを行った。現状、学生との連携がうまく進んでいる団体を選定し、過去にどういった課題があり、それをどのように解決したか、経緯を含めてお話をうかがった。選定の際、学生と活動している町会・自治会が見つけられず、ヒアリングができなかったため、今後の検討課題としたい。

【有田氏】大学・学生と連携している町会・自治会は少なく、まずそこが課題だと考える。

【事務局】ヒアリングをする中で、学生との連携が進んでいる団体は、活動内容や想いを学生に伝えられていることがわかった。両者がマッチングできる場づくりが大事だと感じている。

【高橋氏】ビジョンの全体像において、大学等との共創により取組が期待されるテーマとして、「文化財の保存と活用」が挙げられているが、学生に取ったアンケートでは、八王子市内に住みたい理由として「自然環境(緑・公園など)が良いから」が多く挙がっており、その点が盛り込まれていないことが気になった。

また、基本施策3において「学生が地域を舞台とした様々な活動を通して地域住民と交流を持つことで『社会貢献意識・自己肯定感・自己実現』を向上させ」という文章があるが、違和感を抱いた。自己有用感を経て、自己実現に向かうのではないか。

私自身が地域連携に取り組む中で感じた事例や現場から上がっている声を、この検討会に届けることができよかつたと思う。町会・自治会をはじめ、学生と連携したいと考える団体は多いため、今後、本ビジョンが後押しとなっていけたらと考えている。

【芳林氏】八王子青年会議所では、学生に対して市内企業へのインターンシップを実施している。今後も青年会議所として八王子の地域課題の解決に向けて連携していければと考えている。また、少子化の中で、企業側も留学生に注目し、独自の採用枠を取っていることがある。学園都市として、多くの留学生でにぎわう街という視点もよいと思う。

【木村氏】全体としてバランスが取れた内容になっていると思う。どの施策を重点的に行っていくかという意見もあったが、広く課題をすくい上げた内容とすることで、実際に活動する現場での後押しになるという考え方もあると思う。

ビジョンの基本理念で、交流人口・活動人口の視点が掲げられていたが、学生と関わる中でのキーワードになるのではないかと感じた。学生が活躍し、さまざまな体験ができる街にしていけたらと思う。

【石谷氏】ビジョンの内容が実現すれば、学生たちにとって住みやすく、充実した学生生活を送れる街になるのではないかと。今後は、各校が進学を考える学生たちに地域と連携した学びをPRできるようにしていくとよいと感じた。進学を考える学生からすると、自治体単位で学校を選ぶことは少なく、大学側の情報発信のほうがダイレクトに届くのではないかとと思う。

【武地氏】ぜひ市民の方にも見てほしい内容なので、各施策の説明など、イラスト等で視覚的にもわかりやすく、親しみやすいものにしてもらえたらと考える。また、少子化の中で、卒業後、留学生をいかに地域に定着させるかが重要になってきており、留学生施策は今後大事な視点である。

中央大学は、今年都心型キャンパスとして文京区に法学部が移転し、今後は郊外型キャンパス(八王子市)と二大キャンパスとして活用していきたいと考えている。学生や保護者にヒアリングすると、八王子の適度な郊外らしさが親しみやすさにつながっているようだ。

【事務局】今後、冊子制作に向けて、イラストや図表などを活用して視覚的にもわかりやすいもの

にしていけたらと考えている。学生に卒業後、定住してもらえることも大事だが、学生が在学中の一時期だけでも地域で活躍することも地域の活力につながると感じている。

【熊澤氏】完成したビジョンを広めていくためにも、ビジョンの全体像がわかるものが一枚でまとめられているとよいと感じた。また、五章について少し内容が薄いので、PDCA サイクルを入れるなど、実現に向けたイメージの説明が入っていてもよいと感じた。

【古本氏】複数の参加者から意見が出ていた各施策の KPI については検討の余地があるのか。

【事務局】現状は二つの指標を考えているが、ご意見をいただいたので検討させてほしい。懸念としては、指標の目標値を立てる際、現状の数値があるものかないものがあるので、調整が必要だと考える。

【杉原氏】ビジョンの各施策に細かい KPI を組み込むのはなかなか難しいようにも感じる。一方で、ビジョンの実現に向けては、関係団体を巻き込んでいくことが大事だ。各団体に協力を仰ぎ、それぞれの行動計画等に KPI を盛り込んでいくなど、今後の推進体制について五章で触れてもよいのではないか。

【古本氏】KPI については各団体と調整しながら検討を進めてもらえればと思う。また、自治会・町会のニーズが学生にうまくつながらないという現状については、現状の課題としてビジョン内に盛り込んでもよいのではないか。五章の内容が薄いことが気になったので、今回の検討会で出たご意見をもとに調整が必要では。

今後、少子化が進む中で、大学等は危機的な状況にある。各関係団体がビジョンの内容をそれぞれの行動計画等に落とし込んだうえで、さらに議論を進めていく必要がある。